

飼料用米における全量基肥資材と追肥資材を組み合わせた収量確保

要約

あさひの夢の全量基肥肥料だけによる栽培にくらべ、出穂20日前の追肥を組み合わせる事で玄米収量が向上した。追肥を省力的に施用することで、生産費が減少し、収益性の向上が確認出来た。

○ 展示のねらい

主食用米の需要減少、価格低迷の中、飼料用米への作付け転換を進め、収益性を確保することが喫緊の課題となっている。一方で、管内の飼料用米単収は近年漸減傾向にあり、収益性が低下している。そこで、追肥資材を用い増収を図ることで収益性確保を目指す。

品種：「あさひの夢」 目標収量：600kg/10a

表1〔展示内容及び試験区概要〕

試験区	基肥商品名、窒素成分量	追肥商品名、窒素成分量	合計窒素量
実証区	うつのみや高度一発55 N8kg/10a (現物32kg/10a)	NK-707 出穂20日前 N3kg/10a (現物17.6kg/10a)	11kg/10a
慣行区	同上 N11kg/10a (現物44kg/10a)	無し	11kg/10a

※うつのみや高度一発55 成分：窒素25% (速12.5%+被覆12.5%)、リン酸15%、カリ10%

○ 主な成果

表2〔収量調査結果及び収入額試算〕

試験区	穂数 (本/㎡)	籾数 (/㎡)	登熟歩合 (%)	粗玄米重 (kg/10a)	品代 (円)	戦略作物助 成(円)	粗収入 (円)	経費 (円)	利益 (円)
実証区	366	34,922	90.0	637	6,374	93,994	100,368	62,573	37,796
慣行区	438	28,908	80.6	583	5,827	84,998	90,825	63,125	27,699

表3〔経費試算〕

試験区	資材費			追肥作業 時間(秒)	追肥労 賃(B)	その他の 経費※(C)	経費計 (A+B+C)	備考
	基肥	追肥	小計(A)					
実証区	5,909	1,522	7,432	577	141	55,000	62,573	時給882円で試算
慣行区	8,125	-	8,125	-	-	55,000	63,125	

※栃木県農政部経営診断指標を参考に、一律55千円/10aで試算した。

出穂20日前の追肥で、籾数確保と登熟が向上し、増収した。追肥作業は水田管理機に積載した動力散粒機を用いて行った(2名組作業)結果、作業時間のべ577秒/10a 労賃は141円/10aと省力的に実施する事が出来た。雑収入は戦略作物助成も含め、慣行に比べ、10a当たり約1万円増加した。一方で、水口施用の流し込み追肥資材を試したところ、施肥が10a当たり約80秒/10a程度と、短時間の作業で済んだが、雑草密度が高かったことや、畦畔に崩れた箇所があり、入水量を抑制した結果、肥料の拡散が不十分で調査を断念した。施用前のほ場の状態を確認(水位を下げる。水深5cmの増加に耐えられるよう畦畔の崩れの修繕等)が重要である事が分かった。

○ 今後の方向性

- ・水稲生産費低減の有効な手法として、大規模水稲生産者向けに情報提供する。
- ・流し込み追肥資材の増収効果を確認する。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315